

**IBM InfoSphere DataStage**  
バージョン 8 リリース 7

# トラブルシューティング・ ガイド





**IBM InfoSphere DataStage**  
バージョン 8 リリース 7

# トラブルシューティング・ ガイド



**注記**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC19-3473-00  
IBM InfoSphere DataStage  
Version 8 Release 7  
Troubleshooting Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2011.10

© Copyright IBM Corporation 2008, 2011.

# 目次

## InfoSphere DataStage のトラブルシュー

### ティング . . . . . 1

InfoSphere DataStage and QualityStage クライアント開始時に発生する問題のトラブルシューティング . . . . .	1
サービス層への接続の失敗: 無効なホスト名 . . . . .	1
サービス層への接続の失敗: 無効なポート . . . . .	2
IBM WebSphere Application Server が起動に失敗:	
AIX および Linux . . . . .	4
ユーザーを認証できない . . . . .	6
スケジュールされたジョブのトラブルシューティング . . . . .	6
Windows エンジン層ホストのスケジューリングの問題の解決 . . . . .	7
UNIX および Linux サーバーのスケジューリングの問題の解決 . . . . .	10
ジョブ終了の問題の解決 . . . . .	12
64 ビット・システム上のデータベース・ステージの問題の解決 . . . . .	12
UNIX および Linux システムの ODBC 接続の問題の解決 . . . . .	13
ODBC ドライバーの接続のテスト . . . . .	13

共有ライブラリー環境の確認 . . . . .	13
シンボリック・リンクの確認 . . . . .	14
UNIX システムの構成の問題の解決 . . . . .	15
ファイル・ユニットの不足 . . . . .	15
AIX コンピューターのメモリー不足 . . . . .	16
デザイナー・クライアントのエラーに関するトラブルシューティング . . . . .	16
デザイナー・クライアントでの例外処理 . . . . .	16
ログ・ファイルおよびエラー・レポートの表示 . . . . .	19

### IBM の窓口 . . . . . 21

### 製品資料 . . . . . 23

### 製品のアクセシビリティ . . . . . 25

### 特記事項および商標 . . . . . 27

### 索引 . . . . . 31



# InfoSphere DataStage のトラブルシューティング

これらのトピックには、IBM® InfoSphere™ DataStage® のトラブルシューティングの情報が含まれています。一部の情報は、QualityStage ユーザーにも役に立ちます。

## InfoSphere DataStage and QualityStage クライアント開始時に発生する問題のトラブルシューティング

クライアントの開始とサービス層 (ドメイン) への接続ができない場合、問題は、おそらく、無効なホスト名、無効なポート、スタートアップ・スクリプトのエラー、または間違っただユーザー証明情報のために発生しています。

次の表に、出力される可能性のあるエラー・メッセージのリストと、問題解決のための参照先を示しています。

表 1. InfoSphere DataStage and QualityStage クライアント開始時のエラー・メッセージ

エラー・メッセージ	関連トピック
選択したドメインに対して現行ユーザーを認証できませんでした。 サーバー [servername] が見つかりません。	『サービス層への接続の失敗: 無効なホスト名』
選択したドメインに対して現行ユーザーを認証できませんでした。 ポート [portnumber] のサーバー [servername] に接続できませんでした。	2 ページの『サービス層への接続の失敗: 無効なポート』
選択したドメインに対して現行ユーザーを認証できませんでした。 ユーザー名 (username) またはパスワードが無効です。	6 ページの『ユーザーを認証できない』

### サービス層への接続の失敗: 無効なホスト名

IBM WebSphere® Application Server が開始しているかどうかを確認し、使用しているホスト名が有効かどうかをテストできます。

#### 症状

InfoSphere DataStage and QualityStage™ クライアントの 1 つを開始しようとすると、次のメッセージが表示される。

選択したドメインに対して現行ユーザーを認証できませんでした。  
サーバー [servername] が見つかりません。

#### 原因

サービス層をホストしているコンピューターの名前の指定に誤りがある可能性があります。

#### 問題の診断

インターネット・ブラウザを使用してアプリケーション・サーバーに接続することで、アプリケーション・サーバーが稼働中であるかどうか確認できます。

次のように Web ブラウザーを使用してアプリケーション・サーバーに接続します。

1. Web ブラウザーを開きます。
2. アプリケーション・サーバーのアドレスを、`http://isserver:portnumber/ibm/iis/console` の形式で入力します。ここで、*isserver* は、サービス層がインストールされているコンピューターの名前 (または IP アドレス)、*portnumber* は、サービス層に接続するためのポートです (デフォルトでは、9080)。

アプリケーション・サーバーが開始していれば、ログイン画面が表示されます。開始していなければ、エラー・メッセージが表示されます。

サービス層 をホストしているコンピューターに ping することによって、*isserver* の正しい名前を指定したかどうかテストできます。

## 問題の解決

アプリケーション・サーバーをホストしているコンピューターの絶対パス名を指定することで、問題を解決できる可能性があります。例えば、`isserver:9080` ではなく、`isserver.mycompany.com:9080` と入力してみます。

アプリケーション・サーバーが稼働中でなければ、サービスを開始してみてください。

Microsoft Windows コンピューター上で、サービス層がインストールされているアプリケーション・サーバーを開始するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM WebSphere」 > 「Application Server V6」 > 「プロファイル」 > 「デフォルト」 > 「サーバーの起動」 をクリックします。

UNIX または Linux コンピューター上で、サービス層がインストールされているアプリケーション・サーバーを開始するには、root 権限を持っている必要があります。アプリケーション・サーバーを開始するには、次のステップを行います。

1. ターミナル・ウィンドウから、`WASInstDir/ASBServer/bin/` ディレクトリーに移動します。*WASInstDir* は、アプリケーション・サーバーのインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/IBM/InformationServer/` です。

2. 次のコマンドを実行します。

```
./MetadataServer.sh start
```

## サービス層への接続の失敗: 無効なポート

IBM WebSphere Application Server が開始しているかどうかの確認、ポート番号が有効かどうかのテスト、および正しいポート番号を指定したかどうかの確認を行うことができます。

### 症状

InfoSphere DataStage and QualityStage クライアントの 1 つを開始しようとする、次のメッセージが表示される。

選択したドメインに対して現行ユーザーを認証できませんでした。  
ポート [*portnumber*] のサーバー [*servername*] に接続できませんでした。



## 原因

ポート番号が誤っているか、使用不可です。

## 問題の診断

インターネット・ブラウザを使用してアプリケーション・サーバーに接続することで、アプリケーション・サーバーが稼働中であるかどうか確認できます。

次のように Web ブラウザーを使用してアプリケーション・サーバーに接続します。

1. Web ブラウザーを開きます。
2. アプリケーション・サーバーのアドレスを、`http://isserver:portnumber/ibm/iis/console` の形式で入力します。ここで、*isserver* は、サービス層がインストールされているコンピューターの名前 (または IP アドレス)、*portnumber* は、サービス層に接続するためのポートです (デフォルトでは、9080)。

アプリケーション・サーバーが開始していれば、ログイン画面が表示されます。開始していなければ、エラー・メッセージが表示されます。

コマンド・ラインに次のコマンドを入力して、ポートがクライアント・コンピューターからアクセス可能かどうかテストします。

```
telnet hostname port
```

エラー・メッセージが表示された場合、ポートは非アクティブです。応答がなければ、ポートはアクティブです。

また、次のコマンドを入力して、サーバー・コンピューター上でどのポートが listen しているかをテストすることもできます。

```
netstat -a
```

*isserver:port\_number* の形式の項目を探してください。

WebSphere 管理コンソールで正しいポート番号を指定しているかどうかを確認できます。ポート番号を調べるには、次のようにします。

1. 「スタート」メニューから、「IBM WebSphere」 > 「Application Server V6」 > 「プロファイル」 > 「デフォルト」 > 「管理コンソール」を選択して、WebSphere 管理コンソールを開始します。
2. IBM InfoSphere Information Server がインストールされたときに指定された WebSphere ユーザー名とパスワードを使用して、ログインします。
3. 左のペインで、「サーバー」 > 「アプリケーション・サーバー」を選択します。
4. 「server1」リンクをクリックします。
5. 「通信」 > 「ポート」を選択します。
6. WC\_defaulthost のポート番号を探します。これが、アプリケーション・サーバーに接続するときに使用するポート番号です。

## 問題の解決

アプリケーション・サーバーが稼働中でなければ、サービスを開始してみてください。

Microsoft Windows コンピューター上で、サービス層がインストールされているアプリケーション・サーバーを開始するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM WebSphere」 > 「Application Server V6」 > 「プロファイル」 > 「デフォルト」 > 「サーバーの起動」 をクリックします。

UNIX または Linux コンピューター上で、サービス層がインストールされているアプリケーション・サーバーを開始するには、root 権限を持っている必要があります。アプリケーション・サーバーを開始するには、次のステップを行います。

1. ターミナル・ウィンドウから、*WASInstDir*/ASBServer/bin/ ディレクトリに移動します。*WASInstDir* は、アプリケーション・サーバーのインストール・ディレクトリです。デフォルトのインストール・ディレクトリは */opt/IBM/InformationServer/* です。
2. 次のコマンドを実行します。

```
./MetadataServer.sh start
```

クライアントとサーバーの間にファイアウォールがあるかどうかを確認できます。ファイアウォールがある場合、それを一時的に無効にして、すべてのインバウンドおよびアウトバウンド・ポートが開いていることを確認します。

## IBM WebSphere Application Server が起動に失敗: AIX および Linux

WebSphere Application Server が起動しない場合、問題を修正するために、スタートアップ・スクリプトの 1 つを変更して行うことができます。

### 症状

システムを再始動した後、アプリケーション・サーバーが起動しません。アプリケーション・サーバー・ログにメッセージは何も生成されません。

### 原因

Metadata Server のスタートアップ・スクリプトが完了できません。Metadata Server のスタートアップ・スクリプトのために **nohup** コマンドを発行する必要があります。

### 環境

IBM AIX® または Linux システム。

### 問題の診断

WebSphere Application Server が稼働中であることを確認してください。

次のように Web ブラウザーを使用してアプリケーション・サーバーに接続します。

1. Web ブラウザーを開きます。

2. アプリケーション・サーバーのアドレスを、`http://isserver:portnumber/ibm/iis/console` の形式で入力します。ここで、`isserver` は、サービス層がインストールされているコンピューターの名前 (または IP アドレス)、`portnumber` は、サービス層に接続するためのポートです (デフォルトでは、9080)。

アプリケーション・サーバーが開始していれば、ログイン画面が表示されます。開始していなければ、エラー・メッセージが表示されます。

## 問題の解決

1. 次のコマンドを実行して、コンピューター上の WebSphere Application Server スタートアップ・スクリプトを検索します。

```
cd /etc
find . -name "*" -print | xargs grep -i InformationServer
```

このコマンドにより、名前にさまざまな接頭部が付いた複数のファイルが返されることがあります。一部のファイルは他のファイルにリンクしていて、オリジナル・ファイルに行った変更が反映され、検出された各ファイルを編集する必要がない場合があります。WebSphere Application Server の複数のインスタンスがインストールされている場合は、WebSphere Application Server インスタンスごとに固有のファイルが存在する可能性があります。変更する必要のあるファイルは、非 root として開始するように構成した WebSphere Application Server のインスタンスを参照するファイルのみです。

2. 変更する必要のあるファイルを特定します。通常は、次のファイルを変更する必要があります。

オペレーティング・システム	ファイル
AIX	/etc/rc#.d/S99ISFServer  数値記号 (#) には、0 から 6 の値が示されます。例えば、次のようになります。  /etc/rc0.d/S99ISFServer /etc/rc2.d/S99ISFServer /etc/rc5.d/S99ISFServer
Linux	/etc/init.d/ISFServer

3. ファイルごとに、次のコンテンツを変更します。

以下のテキストを見つけます。ここで、`IS_install_path` は、InfoSphere Information Server をインストールしたディレクトリーです。デフォルトのインストール・パスは `/opt/IBM/InformationServer` です。

```
"IS_install_path/ASBServer/bin/MetadataServer.sh"
"$@"
```

以下の例に合うようにテキストを変更します。

```
nohup "IS_install_path/ASBServer/bin/MetadataServer.sh"
"$@"
```

4. 変更したファイルを保存し、システムを再始動します。

## ユーザーを認証できない

クライアントを開始できない原因が、ユーザー証明情報に問題があるためかどうか確認できます。

### 症状

InfoSphere DataStage and QualityStage アドミニストレーター クライアントの 1 つを開始しようとする、次のメッセージが表示される。

選択したドメインに対して現行ユーザーを認証できませんでした。  
無効なユーザー名 (*username*) またはパスワード

### 原因

この問題の原因はいくつか考えられます。

- ユーザー名が無効です。
- パスワードが無効であるか、有効期限が切れています。
- ユーザーはスイート・ユーザー・ロールを持っていません。
- 証明情報マッピングが必要ですが、このユーザーには定義されていません。
- ユーザーは DataStage ロールを持っていないか、間違った DataStage ロールを持っています。

### 問題の診断

問題の発生場所を特定すると、問題の考えられる原因を診断できます。

- InfoSphere Information Server 認証は、「プロジェクトへアタッチ」ウィンドウで選択可能なプロジェクトのリストを取得するときに実行されます。プロジェクト・リストの取得中にエラーが表示された場合は、ユーザー名またはパスワードが無効であるか、ユーザーがスイート・ユーザー・ロールを持っていないか、証明情報マッピングが必要なのにそれが実行されていないかです。
- DataStage ロール検査は、プロジェクトにアタッチするときに実行されます。プロジェクトのリストは取得できるが、プロジェクトにアタッチできない場合、問題は、このユーザーの DataStage ロールにあります。

### 問題の解決

ユーザー・ロールに関する問題の解決についての情報は、[IBM InfoSphere DataStage and QualityStage アドミニストレーター・クライアント・ガイド](#) でご覧いただけます。

InfoSphere Information Server 構成時のユーザー作成についての情報は、[InfoSphere Information Server](#) でご覧いただけます。

証明情報マッピングについての情報は、[IBM InfoSphere Information Server 管理ガイド](#) でご覧いただけます。

---

## スケジュールされたジョブのトラブルシューティング

ジョブは、システムがさほどビジーでないときに実行するようにスケジュールできます。

ジョブは、「InfoSphere DataStage and QualityStage ディレクター」クライアント・ウィンドウの「ジョブ・スケジュール」ビューからスケジュールします。

InfoSphere DataStage には、独自の個別のスケジューリング・プログラムはありません。代わりに、InfoSphere DataStage がジョブをスケジュールするときは、常に、基盤となるオペレーティング・システムがジョブを制御します。スケジュールされたジョブが正しく実行されない場合、通常、問題は、エンジンのオペレーティング・システム構成にあります。

## Windows エンジン層ホストのスケジューリングの問題の解決

Microsoft Windows エンジン層ホストでは、ジョブのスケジューリングは、スケジュール・サービスによって実行されます。

スケジュールされたジョブが実行されない場合、原因を特定するために実行できるステップがいくつかあります。

### スケジュール・ログの表示

スケジュール・ログを表示して、ジョブのスケジューリングの問題を診断できます。

### 症状

スケジュールされたジョブが期待された時に実行されません。

### 環境

この説明は、Windows 環境に適用されます。

### 問題の診断

スケジュール・ログは `dsr_sched.log` という名前のテキスト・ファイルです。これは、プロジェクト・ディレクトリー (デフォルトでは、`c:\IBM\InformationServer\Server\Projects`) にあります。このファイルには、制御がスケジューラーから InfoSphere DataStage に移される前に発生したすべての問題が記録されます。(その後、メッセージは該当するジョブ・ログ・ファイルに書き込まれます。) スケジュール・ログには、例えば、指定したサーバー・パスワードが有効期限切れであるなどのメッセージが含まれます。

### ユーザー名とパスワードのテスト

プロジェクト内のすべてのスケジュールされたジョブの実行に、ユーザー名とパスワードを指定した場合、ユーザー名とパスワードをテストできます。

### 症状

スケジュールされたジョブが期待された時に実行されません。

### 原因

スケジュール・サービスの実行に使用されるユーザー ID のユーザー名またはパスワード詳細が無効です。

## 環境

この説明は、Windows 環境に適用されます。

## 問題の診断

テストが成功してもスケジュールされたジョブが実行されない場合、指定したユーザー名にプロジェクト・ディレクトリーに対する読み取りおよび書き込み許可があることを確認してください。

テストが失敗した場合、指定したユーザー名にユーザー権限の問題がある可能性があります。どちらの場合も、ユーザー権限を確認してください。

ユーザー名とパスワードをテストするには、次のようにします。

1. アドミニストレーター・クライアントを開き、スケジュールするジョブのエンジンにアタッチします。
2. 「プロジェクト」タブをクリックし、リストからプロジェクトを選択します。
3. 「プロパティ」をクリックします。
4. 「スケジュール」タブをクリックします。
5. テストするユーザー名とパスワードを入力します。
6. 「テスト」をクリックします。
7. ユーザー名とパスワードが検証されるまで待機します (これには少し時間がかかることがあります)。

## ユーザー権限の確認

エンジン層ホストで、デフォルトのユーザー名で Windows スケジュール・サービスが実行されない場合、次の手順で、スケジュール・サービスに正しいユーザー権限があることを確認してください。

## 症状

スケジュールされたジョブが期待された時に実行されません。

## 原因

スケジュール・サービスを実行するユーザーに、十分なユーザー権限がありません。

## 環境

この説明は、Windows 環境に適用されます。

## 問題の解決

ユーザー権限を確認し、必要である場合に新しい権限を割り振るには、次のようにします。

1. Windows エンジン層ホストから、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「ローカル セキュリティ ポリシー」を選択します。
2. 「ローカル ポリシー」フォルダーを開き、「ユーザー権利の割り当て」を選択します。

3. 「ローカル セキュリティ設定」ウィンドウの右側のリストで「**オペレーティング システムの一部として機能**」をダブルクリックします。
4. 「プロパティ」ウィンドウで、スケジュール・サーバーのユーザー名がリストに含まれているかどうか確認します。
5. ユーザー名が含まれていなければ、「**ユーザーまたはグループの追加**」をクリックし、「**選択するオブジェクト名を選択してください**」フィールドにユーザー名を追加して、「**OK**」をクリックします。
6. 「ローカル セキュリティ設定」ウィンドウの右側のリストで「**プロセス レベル トークンの置き換え**」をダブルクリックします。
7. 「プロパティ」ウィンドウで、スケジュール・サーバーのユーザー名がリストに含まれているかどうか確認します。
8. ユーザー名が含まれていなければ、「**ユーザーまたはグループの追加**」をクリックし、「**選択するオブジェクト名を選択してください**」フィールドにユーザー名を追加して、「**OK**」をクリックします。
9. 「ローカル セキュリティ設定」ウィンドウの右側のリストで「**スケジューリング優先順位の繰り上げ**」をダブルクリックします。
10. 「プロパティ」ウィンドウで、スケジュール・サーバーのユーザー名がリストに含まれているかどうか確認します。
11. ユーザー名が含まれていなければ、「**ユーザーまたはグループの追加**」をクリックし、「**選択するオブジェクト名を選択してください**」フィールドにユーザー名を追加して、「**OK**」をクリックします。

## 英語以外の言語のシステムで、スケジューラーを使用するときの問題の解決

英語以外の言語のシステムでジョブをスケジュールする場合、曜日の名前をローカライズしなければならないことがあります。

### 症状

スケジュールされたジョブが期待された時に実行されません。

### 原因

Windows スケジューリングを実行する AT コマンドは、ローカル言語の曜日名のみ受け入れます。

### 環境

この説明は、Windows 環境に適用されます。

### 問題の解決

英語以外の言語のシステムで IBM InfoSphere DataStage を実行していて、特定の曜日に実行するようにジョブをスケジュールしているときに問題が発生する場合、各プロジェクトの曜日をローカライズしてみてください。

曜日をローカライズするには、次のようにします。

1. エンジン上にある 1 番目のプロジェクトのプロジェクト・ディレクトリーにナビゲートします。デフォルトでは、プロジェクト・ディレクトリーはフォルダー `C:\IBM\InformationServer\Server\Projects` です。
2. ノートパッドなどのテキスト・エディターを使用して、ファイル `DSPParams` を編集します。
3. ファイルの最後にローカライズした曜日を追加します。次は、フランス語のシステムで追加する例を示しています。

```
[SCHEDULER]
MONDAY=L
TUESDAY=M
WEDNESDAY=ME
THURSDAY=J
FRIDAY=V
SATURDAY=S
SUNDAY=D
```

ローカルの AT コマンドがどのような曜日名を受け入れるか試してみる必要があるかもしれません。確信が持てない場合は、完全な名前 (例えば、LUNDI、MARDI、など) を入力します。

4. これらのステップを各プロジェクトに対して繰り返します。

英語以外の言語のシステムでスケジューラーを使用しているときに、「リストにエントリーが存在しません」というエラー・メッセージが表示される場合があります。このメッセージは、AT コマンドによって出力され、ディレクター・クライアントによって渡されます。ディレクター・クライアントがメッセージを渡さないようにするには、次のようにします。

1. AT コマンドが出力しているメッセージの固有の部分 (例えば、フランス語では「est vide」) を特定します。
2. 各プロジェクトで、その `DSPParams` ファイルに次の行を追加します。

```
NO ENTRIES=est vide
```

AT コマンドは、英語の曜日に加えて、その他のキーワードをたいてい受け入れます。使用しているシステムがその他のキーワードを受け入れない場合、次のタスクを行って、追加のキーワード NEXT、EVERY、および DELETE のローカライズ・バージョンをプロジェクトに追加できます。

1. 各プロジェクトの `DSPParams` ファイルを編集します。
2. それぞれのキーワードについて、次の形式の行を追加します。

```
KEYWORD=localized_keyword
```

例:

```
NEXT=Proxima
```

## UNIX および Linux サーバーのスケジューリングの問題の解決

UNIX サーバーでは、IBM InfoSphere DataStage ジョブのスケジューリングは、`at` コマンドと `cron` コマンドで処理されます。

スケジュールされたジョブが実行されない場合、原因を特定するために実行できるステップがいくつかあります。



## スケジュールされたジョブの表示

UNIX サーバーでは、自分でスケジュールしたジョブのみを表示できます。

### 症状

管理者が、ユーザーがスケジュールしたジョブのすべては表示できません。

### 環境

この説明は、UNIX 環境に適用されます。

### 問題の診断

IBM InfoSphere DataStage の管理者にとって、問題は、特定の期間に実行するとスケジュールされたすべての InfoSphere DataStage ジョブを、一度にリストできないことにあります。スケジュールされているジョブを検出する唯一の方法は、各ユーザー ID の cron ディレクトリーにあるファイルを調べることです。これらのファイルの名前と場所は、システムによって異なります。詳細は、使用しているシステムの cron コマンドのリファレンス・ページを参照してください。

## スケジュールされたジョブが実行されない問題の解決

スケジュールされたジョブが実行されない場合、ジョブをスケジュールしたユーザーが、cron コマンドを使用する許可を持っていることを確認してください。

### 症状

スケジュールされたジョブが期待された時に実行されません。

### 環境

この説明は、UNIX 環境に適用されます。

### 問題の解決

ユーザー許可を確認するには、コマンドを実行できるユーザーのリストが含まれた cron.allow ファイルと、実行できないユーザーのリストが含まれた cron.deny ファイルを調べてください。これらのファイルの場所は、システムによって異なります。詳細は、使用しているシステムの cron コマンドのリファレンス・ページを参照してください。

## AIX サーバーで、スケジュールされたジョブが実行されない

IBM AIX サーバーで、スケジュールされたジョブが実行されない場合、ファイル許可を確認してください。

### 症状

スケジュールされたジョブが実行されません。

### 環境

この説明は、AIX サーバーに適用されます。

### 問題の解決

AIX サーバーでジョブをスケジュールするには、/usr/spool/cron/atjobs の許可を 770 から 775 (rwxrwxr-x) に変更します。

---

## ジョブ終了の問題の解決

IBM InfoSphere DataStage ジョブを実行しているときに、ジョブの終了が遅れる場合は、&PH& ディレクトリーを消去してください。

### 症状

ジョブの終了に時間がかかります。

### 原因

各 InfoSphere DataStage プロジェクト・ディレクトリーには、&PH& ディレクトリーが含まれます。&PH& ディレクトリーには、アクティブ・ステージについての診断目的に使用される情報が含まれます。&PH& ディレクトリーは、ジョブが実行されるたびに追加され、定期的に消去される必要があります。

### 問題の解決

ディレクトリーを消去するには、次のようにします。

1. システムのどこにも実行中のジョブがないことを確認します。
2. アドミニストレーター・クライアントを開き、「プロジェクト」ページに進みます。消去するファイルが含まれるプロジェクトを選択し、「**コマンド**」をクリックします。
3. 「コマンド・インターフェース」ウィンドウで、次のコマンドを入力します。  
CLEAR.FILE &PH&
4. 「実行」をクリックして、コマンドを実行し、ファイルを消去します。

---

## 64 ビット・システム上のデータベース・ステージの問題の解決

64 ビット環境でジョブを実行する場合、接続ステージが必要とするデータベース・クライアントが、インストールされた InfoSphere DataStage のバージョンと一致することを確認する必要があります。

### 症状

メモリー障害と対応するメモリー・ダンプなどの症状でステージが失敗します。

### 原因

64 ビット・バージョンの InfoSphere DataStage を実行している場合、使用するすべてのデータベース・クライアントも 64 ビットであることを確認する必要があります。32 ビット・バージョンの InfoSphere DataStage を実行している場合、使用するすべてのデータベース・クライアントも 32 ビットであることを確認する必要があります。例えば、Oracle 9i は、32 ビットおよび 64 ビットの両方のクライアントで使用可能です。32 ビットの InfoSphere DataStage では 32 ビットのクライアントを使用する必要があり、64 ビットの InfoSphere DataStage では 64 ビットのクライアントを使用する必要があります。

## 環境

64 ビットの UNIX、Linux、または Windows 環境に適用されます。

---

## UNIX および Linux システムの ODBC 接続の問題の解決

IBM InfoSphere DataStage は、ODBC データ・ソースに接続するために、サード・パーティーの ODBC ドライバーを使用します。問題を診断して修正するために種々のステップがあります。

### ODBC ドライバーの接続のテスト

ODBC ドライバーがデータ・ソースに正常に接続しているかどうかテストできます。

#### 症状

ジョブが、ODBC 接続を使用したデータ・ソースへの接続で失敗する場合、ジョブの外で接続をテストして、ODBC 接続が問題の原因かどうか調べます。

#### 環境

この手順は、UNIX 環境での ODBC 接続に適用されます。

#### 問題の診断

ODBC 接続の接続性をテストするには、次のようにします。

1. ディレクトリー \$DSHOME に移動し、dsenv を実行して IBM InfoSphere DataStage 環境をセットアップします。

```
./dsenv
```

2. 次を入力して、エンジン・シェルを開始します。

```
./bin/dssh
```

3. エンジン・シェルで、次を入力して、プロジェクトにログインします。

```
LOGTO project_name
```

4. 次を入力して、使用可能な DSN のリストを取得します。

```
DS_CONNECT
```

5. 次を入力して、必要な接続をテストします。

```
DS_CONNECT DSN
```

ここで、*DSN* に、テストする接続を指定します。

6. 必要なデータ・ソースに接続するためのユーザー名とパスワードを入力します。
7. データ・ソースに接続した後、「.Q」を入力して接続を閉じます。

### 共有ライブラリー環境の確認

接続エラーは、間違った環境設定が原因であることがあります。

#### 症状

ODBC 接続を使用してデータベースに接続できません。

## 環境

この問題は、UNIX 環境で ODBC 接続を使用する場合に発生します。

## 問題の診断

次のようなメッセージが表示される場合、

```
ld.so.1: uvsh: fatal: libxxxx: can't open file: errno=2
```

共有ライブラリーの場所の探索に使用される環境変数に、ODBC ドライバー共有ライブラリーが追加されていることを確認してください。

## 問題の解決

DataStage の ODBC アクセスが構成されるときに、環境を指定するエントリーがファイル \$DSHOME/dsenv に追加されます。dsenv ファイルを調べて、環境が正しく構成されていることを確認してください。

確認する必要がある共有ライブラリー環境変数の名前は、UNIX システムのタイプによって異なります。必要なエントリーは、接続先のデータベースのタイプによって異なります。UNIX プラットフォームの環境変数は、次の表にあります。共有ライブラリーの場所は、データベースの資料を参照してください。

表 2. ライブラリー・パス環境変数

プラットフォーム	環境変数
Solaris	LD_LIBRARY_PATH
HP-UX	SHLIB_PATH
HP-UX Itanium	LD_LIBRARY_PATH
AIX	LIBPATH
Linux	LD_LIBRARY_PATH

## シンボリック・リンクの確認

ODBC 接続が機能しない場合、シンボリック・リンクを確認してください。

## 症状

ODBC 接続を使用してデータベースに接続できません。

## 原因

共有ライブラリーを新しいディレクトリーに移動したり、新しい ODBC ドライバー・マネージャーをインストールした場合、エンジンがソース・データベースの共有ライブラリーにアクセスするために使用するシンボリック・リンクが壊れた可能性があります。

## 環境

この問題は、UNIX 環境で ODBC 接続を使用する場合に発生します。

## 問題の解決

シンボリック・リンクを新しいディレクトリーに再設定するには、UNIX プロンプトで次のコマンドを実行します。

```
# $DSHOME/bin/dspackinst relink.uvlibs pathname
```

`$DSHOME` は、サーバー・エンジンのホーム・ディレクトリーです。`pathname` は、共有ライブラリーを含むディレクトリーの絶対パス名です。

新しい ODBC ドライバー・マネージャーのリンクを再設定するには、次のようにします。

1. ベンダーの資料の説明に従って、ODBC ドライバー・マネージャーをインストールします。
2. ODBC 共有ライブラリー `libodbc.xx` が存在する場所を判別します。例えば、Intersolv ドライバーのライブラリーは `$ODBCHOME/` の中の `dll` で、Visigenics ドライバーのライブラリーは `$ODBCHOME/` の中の `lib` です。
3. InfoSphere DataStage クライアントをすべて閉じます。
4. 先に説明したように、**relink.uvlibs** コマンドを実行します。
5. InfoSphere DataStage クライアントを再始動します。

---

## UNIX システムの構成の問題の解決

UNIX システムで IBM InfoSphere DataStage を実行する場合、種々の問題が発生することがあります。

### ファイル・ユニットの不足

ファイル・ユニットを使い尽くしたためにジョブが失敗するという通知を受け取った場合は、ファイル・ユニットの割り振りを増やすことができます。

#### 症状

ファイル・ユニットを使い尽くしたためにジョブが失敗します。

#### 環境

この説明は、UNIX システムに適用されます。

#### 問題の解決

エンジンは、パラメーター `MFILES` とカーネル・パラメーター `NOFILES` を使用して、開くことができるファイルの数を決定します。開くことができるファイルの数は、`NOFILES - MFILES` です。問題が発生し、ファイル・ユニットを使い尽くした場合、サーバー・エンジンの `uvconfig` ファイルの `MFILES` の値を減らすか、オペレーティング・システムの `NOFILES` の値を増やすことができます。`uvconfig` ファイルは、`DSEngine` ディレクトリーの中にあります。

`MFILES` の値を変更した場合、次のようにして、エンジンを停止して、再始動する必要があります。

1. エンジンを停止するには、次のようにします。

```
$DSHOME/bin/uv -admin -stop
```

2. エンジンの構成情報をアップグレードするには、次のようにします。

```
$DSHOME/bin/uv -admin -regen
```

3. エンジンを開始するには、次のようにします。

```
$DSHOME/bin/uv -admin -start
```

stop コマンドの実行後、少なくとも 30 秒開けてから、start コマンドを実行してください。

## AIX コンピューターのメモリー不足

IBM InfoSphere DataStage をチューニングして、IBM AIX システムで構成されたメモリーを増やすことができます。

### 症状

大容量のメモリーを必要とするジョブは、メモリーを配置できないというエラーを引き起こします。

### 環境

この説明は、AIX システムに適用されます。

### 問題の解決

次のステップを実行してメモリー割り振りを増やします。

1. エンジン・ディレクトリー内の \$DSHOME/.uvconfig ファイルを編集します。次の変更をします。
  - DMEMOFF を 0x90000000 に変更します。
  - PMEMOFF を 0xa0000000 に変更します。
2. システムにアクティブな InfoSphere DataStage ユーザーがないことを確認してから、エンジンをシャットダウンします。

```
$DSHOME/bin/uv -admin -stop
```
3. エンジンの構成情報をアップグレードするには、次のコマンドを実行します。

```
$DSHOME/bin/uv -admin -regen
```
4. dsenv ファイル (\$DSHOME ディレクトリー内) に次の行を追加します。

```
LDR_CNTRL=MAXDATA=0x30000000;export LDR_CNTRL
```
5. dsenv コマンドを実行して、新規環境設定を適用します。
6. エンジンを再始動します。

```
$DSHOME/bin/uv -admin -start
```

---

## デザイナー・クライアントのエラーに関するトラブルシューティング

デザイナー・クライアントによって提供される情報を使用して、エラー処理を行ってください。

### デザイナー・クライアントでの例外処理

例外が発生すると、デザイナー・クライアントによりエラー・レポート作成のために関連情報が収集されます。

## 例外処理モード

デザイナー・クライアントは、以下のモードのいずれかを使用して例外を処理します。

### 自動エラー・レポート・モード

自動エラー・レポート・モードは、例外が現行の操作で予期されないものである場合に使用されます。

### オプション・エラー・レポート・モード

オプション・エラー・レポート・モードは、例外が現行の操作で予期されない可能性がある場合に使用されます。例外が予期されないものであるかどうか判別できない場合にも、オプション・エラー・レポート・モードが使用されます。

### エラー・レポートなしモード

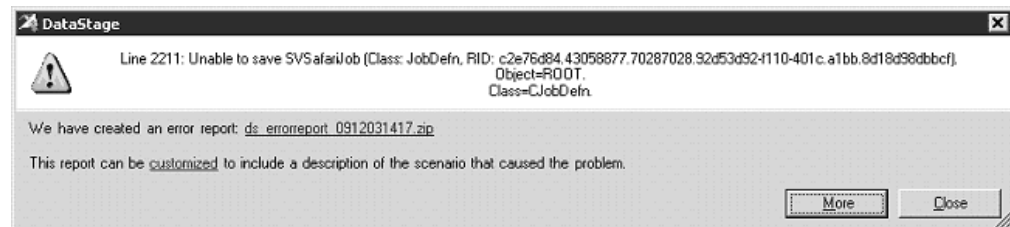
エラー・レポートなしモードは、例外が予期されたものであるか、あるいはメッセージが単なる警告である場合に使用されます。

## 自動エラー・レポート・モード

自動エラー・レポート・モードは、例外が現行の操作で予期されないものである場合に使用されます。

デザイナー・クライアントは、エラーに関連するすべての情報を含んだエラー・レポートを作成します。エラー・レポートは、`ds_errorreport_YMMDDHHmm.zip` と名前のつけられた `.zip` です。YMMDDHHmm は、エラーの日付と時間です。

デザイナー・クライアントによって、次の自動エラー・レポート・メッセージが表示されます。



自動エラー・レポート・メッセージ上では、次のアクションを実行できます。

- `ds_errorreport_YMMDDHHmm.zip` をクリックすると、エラー・レポートが置かれているディレクトリーが Windows ファイル エクスプローラーで表示されます。
- 「カスタマイズ」をクリックすると、「レポートのカスタマイズ」ウィンドウが開きます。このウィンドウでは、問題の原因となったシナリオの説明を追加できます。
- 「詳細」をクリックすると、例外とクライアント・マシンの詳細が表示されます。

`ds_errorreport_YMMDDHHmm.zip` ファイルには、以下の情報が含まれます。

- オリジナル・エラー・メッセージ
- スタック・トレースおよび例外詳細

- クライアント・マシンの詳細
- Client Version.xml ファイル
- 関連付けられた dstage\_wrapper\_trace\_NN.log ファイル
- 「レポートのカスタマイズ」ウィンドウで入力されたオプションのユーザー定義の説明

## オプション・エラー・レポート・モード

オプション・エラー・レポート・モードは、例外が現行の操作で予期されない可能性がある場合に使用されます。例外が予期されないものであるかどうか判別できない場合にも、オプション・エラー・レポート・モードが使用されます。

デザイナー・クライアントによって、次のオプション・エラー・レポート・メッセージが表示されます。



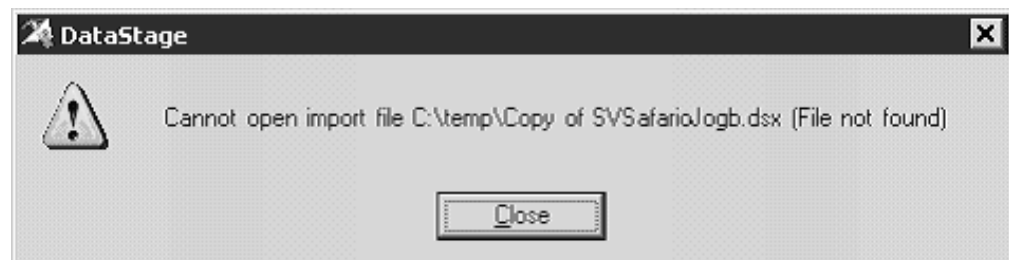
オプション・エラー・レポート・メッセージ上では、次のアクションを実行できます。

- 「**クリックして**」をクリックして、例外のレポートを作成します。「レポートのカスタマイズ」ウィンドウが開き、問題の原因となったシナリオの説明を追加できます。
- 「**詳細**」をクリックすると、例外とクライアント・マシンの詳細が表示されます。

## エラー・レポートなしモード

エラー・レポートなしモードは、例外が予期されたものであるか、あるいはメッセージが単なる警告である場合に使用されます。

デザイナー・クライアントによって、次のエラー・レポートなしメッセージが表示されます。





## ログ・ファイルおよびエラー・レポートの表示

デザイナー・クライアントによって作成されるログ・ファイルおよびエラー・レポートを表示します。

### 現行ログ・ファイルの表示

「ヘルプ」 > 「サポート」 > 「現行ログの表示」をクリックして、現行ログ・ファイルの内容を表示します。内容の表示には、.log ファイルに登録されているアプリケーションが使用されます。

### ログ・ファイルが置かれているディレクトリーの表示

「ヘルプ」 > 「サポート」 > 「ログ/トレース・フォルダーを開く」をクリックします。Windows ファイル エクスプローラーで、ファイル・ログが置かれているディレクトリーが表示されます。

### エラー・レポートが置かれているディレクトリーの表示

Click 「ヘルプ」 > 「サポート」 > 「エラー・レポート・フォルダーを開く」をクリックします。Windows ファイル エクスプローラーで エラー・レポートが置かれているディレクトリーが表示されます。



## IBM の窓口

お客様サポート、ソフトウェア・サービス、製品情報、および全般情報について、IBM と連絡を取ることができます。また、製品についてのフィードバックを行うことができます。

次の表に、お客様サポート、ソフトウェア・サービス、研修、製品およびソリューション情報に関するリソースをリストしています。

表3. IBM リソース

リソース	説明と場所
IBM サポート・ポータル	サポート情報は、 <a href="http://www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server">www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server</a> で、製品と関心のあるトピックを選択してカスタマイズできます。
ソフトウェア・サービス	ソフトウェア、IT、およびビジネス・コンサルティング・サービスについての情報は、「ソリューション」サイト <a href="http://www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja">www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja</a> にアクセスしてください。
My IBM	<a href="http://www.ibm.com/account/jp/ja/">www.ibm.com/account/jp/ja/</a> の「My IBM」サイトでアカウントを作成し、特定のテクニカル・サポートのニーズに合うように、IBM Web サイトおよび情報へのリンクを管理できます。
研修と認定	個人、法人、および公共団体向けに、IT 技術の習得、維持、最適化を目的としてデザインされた技術研修およびサービスについては、 <a href="http://www.ibm.com/software/sw-training/">http://www.ibm.com/software/sw-training/</a> にアクセスしてください。
IBM 担当員	ソリューションについて IBM 担当員と連絡を取るには、 <a href="http://www.ibm.com/connect/ibm/us/en/">www.ibm.com/connect/ibm/us/en/</a> にアクセスしてください。

## フィードバックの提供

次の表は、製品についてのフィードバックを行う方法を示しています。

表4. IBM へのフィードバックの提供

フィードバックの種類	操作
製品のフィードバック	<a href="http://www.ibm.com/software/data/info/consumability-survey">www.ibm.com/software/data/info/consumability-survey</a> の「Consumability Survey」を通して、全般的な製品のフィードバックを行うことができます。



---

## 製品資料

資料は、製品のクライアント・インターフェースから直接開くことができるヘルプ、スイート全体に渡るインフォメーション・センター、および PDF ファイルのブックなど、さまざまな場所および形式で提供されます。

以下の Web で最新情報を入手できます。

[www.ibm.com/jp/software/data/](http://www.ibm.com/jp/software/data/) (日本語のサイト)

[www.ibm.com//software/data/integration/info\\_server/](http://www.ibm.com//software/data/integration/info_server/) (英語のサイト)

インフォメーション・センターは、IBM InfoSphere Information Server に付属した共通サービスとしてインストールされます。インフォメーション・センターには、スイートのすべての製品モジュールの完全な資料だけでなく、ほとんどの製品インターフェースのヘルプも含まれています。インフォメーション・センターは、インストール済み製品から開くことも、Web ブラウザーから開くこともできます。

### インフォメーション・センター

次の方法でインストール済みのインフォメーション・センターを開くことができます。

- クライアント・インターフェースで、画面右上の「ヘルプ」リンクをクリックします。

**注:** IBM InfoSphere FastTrack および IBM InfoSphere Information Server Manager から、メインのヘルプ項目がローカルのヘルプ・システムを開きます。「ヘルプ」>「インフォメーション・センターを開く」を選択して、全スイートのインフォメーション・センターを開きます。

- F1 キーを押します。F1 キーを押すと、通常、クライアント・インターフェースの現行コンテキストを説明するトピックが開きます。

**注:** F1 キーは、Web クライアントでは機能しません。

- 製品にログインしていないときでも、インストールされたインフォメーション・センターには Web ブラウザーを使用してアクセスできます。Web ブラウザーで、アドレス `http://host_name:port_number/infocenter/topic/com.ibm.swg.im.iis.productization.iisinfsv.home.doc/ic-homepage.html` を入力します。host\_name はインフォメーション・センターがインストールされているサービス層コンピューターの名前で、port\_number は InfoSphere Information Server のポート番号です。デフォルトのポート番号は 9080 です。例えば、「iisdocs2」という名前の Microsoft® Windows® Server コンピューターの場合、Web アドレスの形式は次のようになります。`http://iisdocs2:9080/infocenter/topic/com.ibm.swg.im.iis.productization.iisinfsv.nav.doc/dochome/iisinfsv_home.html`

インフォメーション・センターのサブセットも IBM Web サイトの `publib.boulder.ibm.com/infocenter/iisinfsv/v8r5/index.jsp` から利用可能で、これは適宜更新されます。

## PDF およびハードコピー資料の入手

- PDF ファイルのブックは、InfoSphere Information Server ソフトウェア・インストーラーおよび配布メディアを通して利用可能です。PDF ファイル・ブックのサブセットもオンラインで [www.ibm.com/support/docview.wss?rs=14&uid=swg27008803](http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=14&uid=swg27008803) から利用可能で、これは適宜更新されます。
- IBM 資料は、オンラインでダウンロード、または IBM 担当員を通じてご注文いただけます。資料をオンラインでダウンロードするには [www.ibm.com/shop/publications/order](http://www.ibm.com/shop/publications/order) の IBM Publications Center にアクセスしてください。

---

## 製品のアクセシビリティ

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況についての情報を入手できます。

IBM InfoSphere Information Server 製品のモジュールおよびユーザー・インターフェースは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。インストール・プログラムは、次の製品モジュールとコンポーネントをインストールします。

- IBM InfoSphere Business Glossary
- IBM InfoSphere Business Glossary Anywhere
- IBM InfoSphere DataStage
- IBM InfoSphere FastTrack
- IBM InfoSphere Information Analyzer
- IBM InfoSphere Information Services Director
- IBM InfoSphere Metadata Workbench
- IBM InfoSphere QualityStage

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況の詳細は、[http://www.ibm.com/able/product\\_accessibility/index.html](http://www.ibm.com/able/product_accessibility/index.html) をご覧ください。

### アクセシビリティ対応資料

インフォメーション・センターには、InfoSphere Information Server 製品のアクセシビリティ対応資料が用意されています。インフォメーション・センターでは、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で資料を提供しています。XHTML により、使用しているブラウザに設定されている表示形式で資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーやその他の支援技術を使用して、資料にアクセスすることもできます。

### IBM のアクセシビリティ

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントについては、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。





---

## 特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

### 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502  
神奈川県大和市下鶴間1623番14号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
J46A/G4  
555 Bailey Avenue  
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布するこ

とができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは特定物として現存するまま提供し、法律上の瑕疵担保責任を含むいかなる保証責任も負いません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## 商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。



---

## 索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### [ア行]

お客様サポート 21

### [サ行]

サポート

お客様 21

ジョブ終了の問題 12

スケジューリング

Windows サーバー 7

スケジュールされたジョブ 7

ユーザー権限の確認 8

ユーザー名とパスワードのテスト 7

曜日のローカライズ 9

AIX サーバー 11

UNIX および Linux サーバー 10, 11

スケジュールされたジョブの表示 11

スケジュール・ログ

表示 7

dss\_sched.log 7

製品のアクセシビリティ

アクセシビリティ 25

接続の失敗 1, 2

ソフトウェア・サービス 21

### [タ行]

デザイナー・クライアント

エラー・レポートの表示 19

例外処理 17

ログ・ファイルの表示 19

特記事項 27

### [ナ行]

認証エラー 6

認証の失敗 1, 2, 6

### [ハ行]

ファイル・ユニットの不足 15

### [ヤ行]

ユーザー認証の失敗 6

## A

AIX コンピューターのメモリー不足 16

at コマンド 10

## C

cron コマンド 10

## O

ODBC 接続

共有ライブラリー環境 13

シンボリック・リンクの確認 14

UNIX および Linux システム 13

ODBC ドライバー

UNIX および Linux システム 13

## U

UNIX および Linux の構成の問題 15,

16

## W

WebSphere Application Server 1, 2, 6

起動に失敗 4

AIX および Linux 上 4







Printed in Japan

SA88-4499-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21